

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671300154		
法人名	有限会社介護サービス看護婦家政婦紹介所		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町宮倉原ノ内40番地		
自己評価作成日	平成29年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年12月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者本位を基本に、家庭的な雰囲気の中で自宅の暮らしと大きく変わることのないように、個々の生活ペースで過ごせるように支援している。利用者様と職員は馴染みの関係にあり、言いたいことを我慢することなく遠慮せずに暮らせている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、1ユニットということもあり、こじんまりと家庭的な雰囲気が溢れている。地域で必要とされる活動や役割を積極的に担い、地域の一員として継続的に交流がなされている。事業所では、地域の中で利用者一人ひとりがその人らしく生活できるように、管理者及び職員は利用者と共に生活し自由にゆったりと過ごして頂けるように日々支援に取り組んでいる。事業所は、日々の利用者・家族との関わりの中から把握した意見を具体的なケアに繋げている。また管理者は、職員の意見にもしっかり耳を傾け、気づきやアイデアを運営面に取り入れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念の共有ができており、利用者様に寄り添った対応を心がけている。	事業所は、開所時からの理念に基づいたケアを実践している。利用者一人ひとりが、地域の中でその人らしく生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自主防災の役員に事業所からも参加しており、また地域のきずな会との交流で生き生き百歳体操等に一緒に参加する機会を持つ等活動している。	事業所には、地域の保育園児や小学生の来訪がある。事業所の夏祭り等で地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。また、地域住民から農作物等のおすそ分けが届けられたり、事業所の夏祭り等に地域住民が参加したりして、互いに交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	きずな会との交流や事業所の行事に参加してもらい関わりを広げ、理解を深めてもらったり、オレンジカフェにて気楽に話せる場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活発な意見交換ができており、地域の自治会の話も交わったりするが、その中でグループホームがどう関わっていけるか等地域に受け入れられるよう務めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者、家族、地域住民、民生委員、市担当者、包括支援センター職員等の出席を得ており、双方向的に意見交換を行い、積極的に事業所の運営面に反映するよう努めている。また、多数の家族が会議に出席できるよう呼びかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者に会議への参加も協力してもらっている。相談事等も積極的に行っている。担当者によっては温度差が感じられる。	職員は、事業所の取り組みや活動内容について市町村担当者に報告したり、相談したりしている。職員は、窓口担当者と密に連携を図るよう心がけており、事業所への理解を得られるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の三原則を職員全員が理解しており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	事業所では、身体拘束の具体的な内容の理解や廃止に向けた取り組みについて共有化を図るための機会を設けている。職員は、見守りを中心とした支援を心がけ、外出希望のある利用者には、付き添うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する報道がある都度話し合いの場を設け、虐待防止に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて関係者と相談し、活用している利用者様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には理解度に応じて説明を行い、改訂時には文書で報告している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様との馴染みの関係を作り、介護計画作成前には話し合いの場を設け、意見や要望を聞くようにしている。	事業所は、利用者や家族の希望等聞くように意見箱を設置している。また、家族等の来訪時や電話連絡時は、利用者の様子を伝えており、話しやすい雰囲気づくりに努めている。把握した要望や出された意見は、職員間で話し合い運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間では何でも話せる関係にあり、意見等管理者や代表者に伝える機会には常にある。一緒に考え可能な事は反映させている。	管理者は、職員が意見や意向を表出しやすい環境づくりに努めている。日頃の業務を通じて把握した職員の意向は、代表者に伝え、業務の改善等の運営面に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当等働きに応じて給料を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の情報を提供し、希望する研修に参加したり、管理者が勧める研修には人選し参加している。研修後には皆で共有できるよう報告の場を設けている。資格取得にも積極的に勧め、協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会やケアマネネットワークで知合った他の事業者と情報交換をしたり、相談にのってもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時には本人に見学に来てもらったり、面接に出かけたりして本人とコミュニケーションがとれるように努めている。利用時には関わりを多く持ち、馴染みの関係が作れるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時には見学に来てもらい、面接時に不安に思うことや困っていること等傾聴し、どうい対応ができるかを伝えたり、一緒に考えていけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どういサービスが適応するかを見極め、適切なサービスの利用ができるように調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事一般を通し、一緒に出来ることを増やしたり会話や趣味活動の中でお互いが支え合える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の今までの生活や家族様との関わりが大きく変わってしまわないように家族様とも話し合い、面会に来てもらいやすいように雰囲気作りをしたり、外出も自由にしてもらえよう伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が行きたい場所、会いたい人等実現できるように支援している。家族様にも協力してもらい親戚への訪問等可能な限り関係が途切れないように努めている。	職員は、利用者が会いたい人や行きたい場所の把握に努めている。家族の協力を得て、行き付けの美容院に行ったり、お墓参りや外食、姉妹の家への訪問等これまでの馴染みの関係を継続できるよう支援している。事業所では、利用者の友人や知人の来訪時もゆっくと会話できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様の状態を把握し、気の合う合わない関係を知り、円滑にコミュニケーションが図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も入院先にはお見舞いに行ったり、関係者には情報提供を行い共有できるようにしている。ご家族様には季節の挨拶文を出したり関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で利用者様の思いを引き出したり、意見を聴いたりし、できるだけ希望や意向に添えるよう努めている。	事業所は、日頃の関わりの中から、利用者の希望や意向を把握するように努めている。意思の表出が困難な方には、些細な表情の変化や行動、アイコンタクト等から意向を汲み取るようにしている。職員は、本人の立場に立って、最良の暮らし方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時等に家族から情報を得、把握に努めている。入居後も本人、家族共に話す機会を多くし、本人が自分らしさを発揮して生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、重度化している中でも出来る事を見つけ能動的に過ごせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員等から意見を聞く機会を持ち、本人のより良い暮らしを願って介護計画を作成している。	事業所は、本人や家族、主治医、その他の関係者間で話し合い、利用者一人ひとりの意向を踏まえたうえで、具体的な介護計画を作成している。定期的に介護計画を見直したり、状態の変化に応じ随時の見直しを行ったりして、常に利用者の現状に応じて柔軟に対応できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に簡潔に必要な情報を昼夜に分けて記入している。職員間で情報を共有できるように、日誌を見ると全体的な把握ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、マッサージ、訪問理美容やボランティアの受け入れも積極的に取り入れている。		

自己	外部	項目	グループホームあすか		外部評価	
			自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域は利便性に富んでおり、スーパーや飲食店、図書館、医療関係等多種にわたり利用している。又地域の自主グループのきずな会や生き生き体操グループとの交流も深めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医や家族の希望を最優先し受診出来るようにしている。ホームの主治医の往診も受けられることも説明している。	事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診も家族と密に連携を図りつつするなど適切な医療の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師との連携はスムーズで受診や看護処置、相談にすぐ対応できるようになっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供している。入院中も状態確認のために少なくとも2日に1回は顔見せに行き、病院の担当者や連携室との情報交換に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を尊重し、話し合いの中で事業所で出来ることできないことを伝え両者が納得したうえで医療・介護・家族が協力して支援できるようにしている。	契約の段階で本人や家族に重度化した場合や終末期に関する意向を確認するとともに、事業所の支援方針を説明している。事業所では、利用者の状態の変化がある度に、本人や家族に意向を確認しながら、対応方針の共有化を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、AEDも設置し研修も受けている。応急手当等については文書での資料もすぐ見られるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所での避難訓練や地域の防災訓練に参加している。地域の方も避難時に車椅子の方の介助を手伝ってくださったり訓練時の協力も得られている。	事業所は、法定の避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練の実施が望まれる。訓練には、地域住民の参加も得ている。管理者は、地域の自主防災役員として活動し、地域の協力体制を得ている。	事業所が多様な災害時の支援体制を整備するためにも、夜間想定訓練の実施が望まれる。消防署や地域住民の協力も得ながら、定期的に訓練や点検等を行い、災害対策に備えられたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、できるだけ個々が喜ぶ会話や言葉かけを心がけている。又トイレ誘導時や排泄時には羞恥心やプライドを傷つけないように配慮している。	職員は利用者一人ひとりの個性を大切にした支援を心がけている。入浴や排泄時には、特に自尊心を傷つけないケアを心がけている。言葉づかいや呼び方、声のかけ方などは、親しみを込めつつも尊厳が守られるよう実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、衣服の選択から食べたいもの、したいこと等問いかけるようにし、自己決定する場を常時設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた生活リズムで過ごせるようにしている。「～したい」と言う言葉にはできるだけ実現できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを重視し、季節にあった服装のアドバイスをしたり、化粧がしたい人には化粧品を補充したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューの相談を持ちかけたり、ある材料から献立を考えたり一緒に食事作りをすることを基本としている。個々の出来る力を見極め参加してもらっている。	家庭的な雰囲気の中で、利用者と職員は食卓を囲み、楽しく食事をとっている。季節感にも配慮したメニューとなっている。近所から頂いた魚や野菜が食卓にあがることもあり、利用者一人ひとりの状態に応じて食事の準備や調理も担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、摂取カロリーの目安を大まかに決めて確保できるように配慮している。個々に摂取量を記入し、足りない方には補助食品(カロリーメイト)等で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを知っており、毎食後の口腔ケアを実施している。必要に応じて専門医の定期ケアをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホームあすか		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を個々に記録し、排泄感覚等のパターンを把握するように心がけて対応している。可能な限りトイレでの排泄を支援している。	職員は、利用者のトイレでの排泄を支援している。利用者の状態に合わせて、布パンツやリハビリパンツ、パット等を使用し、気持ちよく排泄できるよう支援している。声かけや誘導などを行い、さりげなく介助している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動、水分摂取等に配慮し自然排便を心がけている。服薬に頼る事は最後にしている。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状態の可能な限り本人の生活習慣に合わせた時間帯や希望する時間に入浴できるように支援している。	利用者一人ひとりの状態に応じて、安全で安心に入浴することができるよう支援している。事業所は、利用者が少なくとも1日おきに入浴できるよう支援している。長時間、入浴したい方や入浴剤を使用したい方などには、個々の要望に配慮した支援をするなどの工夫を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況に応じて日中の活動量を増やす等昼夜逆転防止に努めている。服薬には頼らず、足浴やアロマを用いて安心して眠れるよう支援している。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師とも相談の上服薬は最小限にしてもらっている。薬の目的や副作用について把握できるように文書にまとめている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話等からその人の喜ぶ事や得意な事を把握し、役割を持ってもらったり楽しく過ごせるように支援している。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や希望に合わせて外出支援を行っている。利用者の重度化と職員不足で、全員が外出することが困難で外気浴やホーム周辺の散歩等外気に触れる機会を設けるようにしている。	事業所の玄関には施設がなく、いつでも利用者が事業所内の庭を散歩することができるようしている。季節の花見や外食等にも出かけている。スーパーに買い物に出かけるなどして気分転換を図っている。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は小遣い程度のお金を管理してもらっていたが、取られ妄想によるトラブルが絶えないため、立替形式で欲しいものをその都度お金を持ってもらい買い物できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、環境の装飾品を折り紙等で製作し飾ったり、職員と一緒に環境整備に努めている。又アロマを取り入れほのかな香りで居心地良い空間となるよう工夫している。	事業所内の明るく広い共用スペースは、皆で一緒に囲むテーブルや、くつろぐソファがあり、心地よい空間となっている。また日常的にソファなどの家具を移動させて上手く空間を使用している。手作りの手芸品や掲示物を飾り付けて、季節感や生活感を出せるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はほぼ全員がホールで過ごしているがソファを設置し、気のあった人と少人数で座って話ができたり、玄関先にもベンチを設置し、戸外の空気に触れることが出来るようにもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は本人の生活形態や身体状況に合わせて洋式・和式に変える事ができる。馴染みのある物を自由に持ち込み、家族や職員と一緒に配置を決めたりして居心地よく安全に過ごせるように工夫している。	事業所は、居室に写真や思い出の品を持ち込んでもらっている。本人や家族と相談しながら、清潔で心地よく過ごせるよう配慮している。転倒防止を工夫するなど環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、又手すりがあり、トイレや浴室等に安全に移動できるようになっている。室内やトイレ等個々の理解力に合わせてわかりやすい表示にしている。		